

令和7年度 県立下館工業高等学校自己評価表

目指す 学校像	1 心身ともに健康で、互いを尊重する豊かな人間性を培い、次世代を担っていく人材を育成する学校。 2 工業に関する知識・技術を身に付け、堅実な職業観を持った産業の発展に寄与する人材を育成する学校。 3 進学や就職など生徒の希望する進路の実現を図り、地域から信頼される進路選択肢の広い学校。			
三つの方針		具体的目標		
「三つの スキル ポリシー」	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	① 心身ともに健康で、互いを尊重する豊かな人間性を培い、次世代を担っていく人材 ② 工業に関する知識・技術を身に付け、堅実な職業観を持った産業の発展に寄与する人材		
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	① 生徒一人一人の学力の向上を図るために、授業や実習を工夫・改善する。 ② 専門性を高めるために、専門的な知識・技術の定着を図り、資格取得の実績を伸ばす。 ③ 進路希望を実現するために、生徒の能力や適性に応じた進路指導体制を充実する。 ④ 基本的な生活習慣の確立に努め、高校生らしい態度や行動を育成する。 ⑤ 生徒の心身の成長を促すために、特別活動の充実を図り、安心・安全な環境づくりを進める。		
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	① 工業に関する分野に興味を持ち、深く探究しようという強い意欲のある生徒 ② 自分の進路実現を目指し、日々努力する生徒 ③ 学校や社会の規範を守って日常生活を送ることができ、学校行事、生徒会活動、部活動などに積極的に取り組む意欲のある生徒		
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況
<p>重点目標の達成状況は5段階評価でB段階であった。学校評価生徒アンケートでは、授業がわかりやすい、先生は教え方を工夫しているとの回答が約90%だったが、意欲的に勉強しているとの回答は64%にとどまった。それに伴って、資格合格率も低下傾向である。</p> <p>進学希望者は全体の約3割だが、そのうちの約4割が4年制大学を志望しており、微増と言える。就職をする生徒は、主に技能・技術職の分野へ確実に就職している。</p> <p>大部分の生徒は社会の一員としての責任やマナーを身につけているが、一部で基本的な生活習慣が十分定着しておらず、遅刻や欠席が目立つ生徒がいる。</p> <p>引き続き基礎学力の向上を図ると同時に、学校行事等を自主的・実践的な態度を育てていき、生徒一人ひとりが、確かな生活目標を持てるよう努めていく。</p>		1 基礎学力向上と個に応じた学習指導の徹底 (学習指導・進路指導)	1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進する。 2 学習意欲の向上を図るとともに、外部試験の評価を活用してさらなる能力開発を図る。	A
		2 基本的な生活習慣の確立と規範意識の育成 (挨拶・公共の場でのマナー)	3 生徒一人ひとりの個性を活かし、確かな生活目標を持たせ、支援する。 4 家庭や地域・関係機関との連携を深め、非行や問題行動の未然防止を図る。	B
		3 地域と連携した学校づくりの推進 (開かれた学校づくり・地域イベントへの参加)	5 地域イベントへの積極的な参加をし、特色ある学校の魅力を発信する。 6 学校広報力の強化を目指し、webページの充実、ポスター等の制作を行う。	B
		4 生徒の主体的な活動の充実 (部活動・ボランティア活動)	7 特別活動の充実を図り、生徒の自主的・実践的な態度の育成に努める。 8 部活動のさらなる充実と生徒ケアを図り、人間性向上と健康・体力増進を図る。	A
		5 安全教育の徹底 (防災安全・授業中の事故防止)	9 地元警察署等と連携し、交通安全指導等の徹底を図る。 10 実技・実習等における5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)の徹底を図る。	A
		6 働き方改革の推進	11 教職員の同僚性、協働性を高め、業務分担の平準化と業務の効率化を図る。 12 勤務時間や業務内容等の適正化を図るためのPDCAサイクルの確立を図る。	A
		7 キャリアパスポートの活用	13 生徒が自らのキャリア形成を見通し、将来の生き方を考える活動を推進する。 14 生徒が自らの学習状況を振り返り、自己の変容や成長への気づきを促す。	B
		8 授業改善の推進	15 ICTを積極的に活用し、授業改善を図る。(生徒の授業満足度 \geq 75%:KPI)	B

※評価基準 A:大変よくできた B:よくできた C:ふつう D:やや不十分 E:不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
国語	基礎学力の向上を図る。	授業及び家庭学習において国語力の定着を図るための教材を準備する。	1	A	進路実現を見据え、小論文を中心とした言語活動の充実を図り、思考力、判断力、表現力の向上を目指す。ICTを効果的に活用し、言語活動の質を高める授業改善を進める。
		漢字テスト等の小テストを活用し、生徒の学力を把握するとともに、学習習慣を身に付けさせる。	1・2	A	
	読書を通して豊かな人間性を培う。	授業の始業時の読書活動等により、豊かな感受性を養うとともに思考力を向上させる。	1	A	
		就職・進学指導の充実を図る。	新聞やスタディサブリの活用を通して、生徒一人ひとりの進路実現に供する。	1	
		一般常識や作文、小論文の指導を通して、個々の進路希望に応じた知識や表現力を習得させる。	1	A	
地歴公民	基礎学力の向上を図る。	わかりやすい授業展開及び板書を心がけ、理解の不十分な生徒への対応を図る。	1	A	授業方法やICTの活用など、高い自己評価をつけた事項は引き続き高いレベルを維持していきたい。 来年度以降は、小テストなどで定期考査対策などを充実させていきたい。
		小テストを活用し、進路実現に対応した一般常識の定着を図る。	1・3	C	
		ノート、プリントなどを定期的に点検し、学習の理解度などを把握する。	1・3	A	
	学習指導の工夫に努める。	電子黒板、タブレットによるICT教育の積極的な活用を図る。	1・15	A	
		修学旅行先等各地の地理・歴史・文化を授業で取り上げ、生徒が関心を持つ授業に努める。	1	A	
		自らの意見を表現させる授業展開を心がけ、主体的に学習に取り組む態度の育成を促す。	1・2	B	
数学	基礎学力の向上に努める。	生徒の習熟度に応じた教材を精選し、授業での個別指導等を通してきめ細かな指導を行う。	1	B	単元毎に必要な予備知識を確認しながら、生徒が主体的に活動できる授業を通して、学力の向上を図る。研修会にも積極的に参加する。
		レディネステスト、単元別テスト、定期考査等を利用して学習の理解度を把握し、不十分な生徒には補講を実施する。	1	A	
		進学希望者への課外授業等を通して学力の向上に努める。	1・3	B	
	家庭学習習慣の定着に努める。	問題集やプリントを利用して、家庭学習の習慣をつける。	1	A	
	わかる授業へと改善を図る。	効率的な教材開発を行い、生徒の実態に合わせた授業を展開する。	1	A	
理科	基礎学力の向上を図る。	工業高校で学習する上で重要な物理や科学の基礎知識及び学力の定着に努める。	1	B	・基礎学力の向上 ・学習習慣の定着 ・科学的な探究力
		ICT等の多様な学習方法を活用し、理解度を把握し、不十分な生徒へは補講等を実施する。	1・2・15	B	
	理科の楽しさを実感する授業に努める。	ICT機器や実験・観察等とおして、理科への興味関心を惹きつける。	1・10・15	A	
	家庭学習の定着に努める。	自主的な学習や宿題、レポート等の提出状況を確認し、自ら探究する姿勢へと導く。	1・2・15	A	
英語	基礎学力の向上を図る。	小テスト等を実施し、授業での学習内容の定着を図る。	1	B	・基礎的な文法事項の理解を深める。 ・英語による言語活動を重視し、コミュニケーション能力を高める。
		ワークやプリントを定期的に点検し、学習状況の実態を把握する。	1	A	
		課題等を与え、家庭学習の習慣をつける。	1	A	
		課外を実施し、進学希望者の実践的学力の向上を図る。	1・3	B	
	学習指導の工夫に努める。	英語の授業は英語で行うことを基本とし、生徒に積極的な言語活動を促す。	1	B	
電子黒板、タブレットを活用し、学習意欲を向上させるとともに、学習内容の理解を促進する。		1・15	A		
		ALTと協力し、コミュニケーション活動の活発化を図る。	1	A	
保健体育	基礎体力及び技能の向上を図る。	毎時間の授業の中で体づくり運動を取り入れる。	1・15	A	1学期「体づくり運動」の単元時間を削減し、その他の球技種目時間数に余裕を持たせ、段階的な個別指導を重点目標とする。
		技能の未熟な生徒や到達目標に達していない生徒に対しては、段階に応じて個別指導を実施する。	1・15	B	
	運動の楽しさや喜びを実感できる授業の展開を図る。	ゲームを通して運動量を確保し、種目の特性を理解できる機会を多くする。	1	A	
		勝敗を競い合うことの楽しさ、仲間と協力して達成する喜びが実感できる指導に努める。	1	A	
自らの健康について関心をもち活力ある生活を営む態度を育てる。	喫煙・飲酒・薬物乱用が健康に及ぼす影響について、学校生活全体を通して徹底指導を図る。	3・4・15	A		
	基本的な生活習慣を身につけさせるとともに適切な意志決定・行動選択をする力を培う指導に努める。	3・4	A		
家庭	家庭生活に関する基礎的・基本的な知識と技術を身につけ、実生活に生かす力を養う。	授業への取り組みや課題等の提出状況を確認し、理解度を把握する。	1	A	実験・実習を通して基礎的・基本的技術の向上が図られた。さらなるICTの活用を努める。
		実験・実習を通して基礎的・基本的技術力の向上を図る。	1	A	
	学習指導の工夫に努める。	教材や資料の利用を工夫し、生徒の理解を深める授業を行う。	1	B	
		実験・実習など安全かつきめ細やかな指導をする。	1	A	

※評価基準 A：大変よくできた B：よくできた C：ふつう D：やや不十分 E：不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
美術	美術を愛好する心情を育成する。	絵画を通じデッサン、色彩、構成、材料や用具の生かし方などの技能の修得を図る。	1	B	B ・課題の始まりから終わりまでのプロセスの明瞭化。 ・今年度の取組を活かし、個々の生徒が制作のイメージを喚起しやすい状況をつくる。
		意図に応じた多様な表現方法の工夫ができるようにする。	1	A	
	感性を高め創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。	機能と美しさや楽しさを考えた主題の生成を図る。	1	A	
		鑑賞に関して、作者の心情や意図と表現の工夫を理解させる。	1	B	
	個性豊かな美術の能力を高める。	デザインを通じ生活を心豊かに想像する主題の生成を図る。	1・3	A	
音楽	鑑賞力を養う。	主体的・能動的に音楽鑑賞ができるよう事前学習を徹底する。	1	B	B 生徒により適した教材の検討を追求していく。
	音楽を愛好する心情を育て豊かな情操を養う。	様々なジャンルの音楽を通して、創造的な表現力の育成を図る。	1	B	
機械科	機械の知識や基礎技能の向上を図る。	授業の内容が理解できるように、生徒に課題提出や補習等を実施する。	1	B	B 学習活動が高められるようにICT活用に努める。資格取得の合格率を高める工夫をする。
		専門教科・科目に興味を持たせる指導の工夫を図る。	1・15	B	
	授業や補講により、資格取得の支援に努め、計画的に実施する。	1	B		
	安全の確保や事故の防止	安全教育の実施及び事故防止に向けた安全管理の徹底に努める。	10	A	
電気科	基礎学力の定着と資格取得の実績を上げる。	授業や実習を充実させるために、教材研究を積極的に行い指導内容の見直しを図る。	1	B	A
		わかりやすい授業を試み、成績不振の生徒に対しては課題や補講で対応する。	1・15	A	
	教科指導や補講を通して資格取得の支援に努め、計画的に実施する。	2	A		
	安全の確保や事故の防止	安全教育の実施及び事故防止に向けた安全管理の徹底に努める。	10	A	
電気・電子科	基礎・基本の徹底と個別指導による学力の向上を目指す。	わかりやすい授業を試み、成績不振の生徒に対しては課題や補講で対応する。	1・15	B	B ・基礎・基本的な能力を身につけさせ、電気系に対する興味・関心を高め学校生活を充実させる。 ・資格取得の奨励と合格率を高める工夫を目指す。
	資格取得の実績を上げる。	知識の理解度や、計算能力の達成度を十分に把握し、授業展開に注意を払う。	1	B	
		様々な資格に関する情報を提供する。	2・13	C	
	教科指導、資格指導を担任と連携し積極的に行う。	1	B		
	放課後や長期休業期間等に、筆記試験および実技関連の課外授業等を行い、資格取得指導の充実を図る。	2・13	B		
	安全の確保や事故の防止	安全教育の実施及び事故防止に向けた安全管理の徹底に努める。	10	B	
建設工学科	基礎学力の向上を図る。	小テストを実施して理解度を把握し、不十分な生徒に対しては補講を実施する。	1	B	B ・習慣的学習態度を身につけさせ、建設系に対する興味・関心を高め学校生活を充実させる。 ・資格取得の奨励と合格率を高める工夫を目指す。
		演習問題を数多く行い、レベルアップを図る。	1	B	
		製図や資格試験との関連性を重視した教材内容とし、図面の読み書き等が正確にできる基礎能力を養う。	2	B	
	資格取得実績の向上を図る。	授業や補講により、資格取得の支援に努める。	2	C	
	競技会に参加する。	ものづくりコンテスト関東大会の出場を目指す。	2	A	
		各種コンペ競技に参加する。	2	B	
	外部機関との連携を図る。	建設業への興味・関心をさらに持たせることを目指す。	2	A	
	専門的な知識や技術の向上を目指す。	2	A		
	安全の確保や事故の防止	安全教育の実施及び事故防止に向けた安全管理の徹底に努める。	10	B	
電子科	基礎・基本の徹底と個別指導による学力の向上を目指す。	基礎理論について、きめ細かく、そしてわかりやすく指導・説明する。	1・15	B	B
		知識の理解度や、計算能力の達成度を十分に把握し、授業展開に注意を払う。	1	C	
		専門科目の演習問題を多く利用し、応用力をつけさせる。	1・2	C	
	座学と実習を関連させながら、理論と実際の成り立ちをわかりやすく説明する。	10	B		
	資格取得指導の一層の充実を図る。	様々な資格に関する情報を提供する。	2・13	B	
	放課後や長期休業期間等に、筆記試験及び実技関連の課外授業等を行い、資格取得指導の充実を図る。	2・13	B		
	安全の確保や事故の防止	安全教育の実施及び事故防止に向けた安全管理の徹底に努める。	10	C	

※評価基準 A：大変よくできた B：よくできた C：ふつう D：やや不十分 E：不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教務	教育活動の公表に努める。	学校要覧、学校案内パンフレット等を作成し、開かれた学校づくりに努める。	6	A	HPの積極的な活用を促していき、在校生や保護者、中学生等に情報を提供していくことを目指す。
		生徒・保護者による授業評価・学校評価を行い、結果をホームページで公表する。	3	A	
	授業時間数の確保に努める。	授業時間数を確保するため、年休・出張時の授業の振替を徹底する。	11・12	A	
		学校行事を精選し、授業時間数を確保する。	11・12	B	
	資格取得実績の確実な伸長を図る。	各種検定試験の計画・実施を通して、資格取得実績の伸長を図る。	2	B	
	基礎・基本の徹底と学力の向上を目指す。	授業改善推進プロジェクトのもと、授業展開を工夫し、生徒の基礎学力の向上を目指す。	1	B	
	研修をとおして教員の資質の向上を図る。	人権教育やICT教育推進に関する教職員研修会を実施し、教職員の資質の向上を図る。	1・11	B	
	生徒の学習環境の支援を図る。	各種奨学金等の事務処理を確実に行う。	4	A	
地域イベントへの積極的な参加をする。	地域の各機関との連携を図ることにより、特色ある学校の魅力を発信する。	5	B		
生徒指導	「挨拶」「服装・頭髪」等の基本的なマナーを身につけさせる。	遅刻指導、服装指導を通して、あいさつの励行や服装頭髪等のルール遵守を図る。	3・4	A	・基本的生活習慣の確立およびルールを守る規範意識の醸成を目指す。 ・全職員の共通理解を持ち、日常の生徒指導にあたる。
		教職員指導当番や各学年および校務部との連携により、登下校マナーの向上に取組む体制を構築する。	3・4	B	
	社会の一員としてのモラルの高揚に努める。	バイク通学者指導、バイク点検、交通講話等を通して、交通安全の意識を高め事故を未然に防ぐ。	4・9	B	
	盗難や器物破損等の行為については、集会(学年・全校)・検査・保護者宛文書、場合によっては警察に協力を依頼する。各校務部・家庭や関係機関との連携を図る。	4・9	B		
心の教育の充実に努める。	ホームルーム、授業及び定期的な調査等を通して、小さな変化、サインを見落とさない体制を作る。	3・4	A		
	各学年・保健室等との連携をはかり、生徒個々の密な情報交換に努める。また、スクールカウンセラーの活用を推進する。	3・4・8	A		
進路指導	計画的・継続的な指導による進路意識の高揚を図る。	計画的な進路ガイダンスにより、将来に夢や希望が持てる継続的な指導を図る。	1・2・3	A	・進路ガイダンスについては、学年との連携を強化する。 ・情報提供については、WEBを積極的に活用する。 ・地域コンソーシアムについては、地域との連携を一層充実させて、教育力を向上させる。
		各種適性検査のデータやワークシート等の活用を通して、各自の適性を知り職業観の定着を図る。	2・3	B	
		工場見学・インターンシップ等の実体験を通して、勤労や職業に対する見方・考え方の形成を図る。	3・5	A	
	将来のスペシャリストとしての素養の熟成を図る。	教科・学年と連携し、模擬試験等を活用し系統的に学力が身に付く体制づくりをする。	1・2・3	B	
		職業資格取得の奨励により、スキルアップ・職業意識の高揚を図る。	2・3	B	
	外部との連携を充実する。	産業界や大学等との友好的なパートナーシップを築く。 保護者への計画的・継続的な進路啓発活動に努める。	3 6	B B	
情報提供を充実する。	「進路実現ノート」及び「進路だより」の発行や進路ホームページを工夫するなど、的確な進路情報の提供を行う。	6	A		
	WEBを活用した進路情報の有効的な活用を図る。	3・5・6	A		
特別活動	自主性を育てる生徒会活動の活性化に努める。	文化祭やクラスマッチを中心とした学校行事において、ホームルーム・生徒会・委員会などの自主的活動を促す。	7	A	・キャリアパスポート活用の活性化を図る。 ・学校HPを活用し広報活動を促進する。
		生徒会誌「轍」や生徒会新聞「志工」を発行し、生徒を通じ地域や保護者等への広報活動を充実させる。	6	B	
	学校行事を積極的に公表する。	校外ボランティア活動に積極的に参加することを勧め、地域とのつながりを密にする。	3・4	B	
		生徒が自ら考え行動できる生徒会活動の組織構築を行う。	7	B	
キャリアパスポートの活用を図る。	LHR等においてキャリアパスポートを活用することにより、生徒の主体的な進路選択を促す。	3	B		
厚生	学習活動に適した環境の整備と、学校の安全の確保を図る。	日頃の清掃活動や定期的な大掃除により、生徒の環境美化意識を高める。	3・10	B	・今後も基本的な感染症対策の周知と対策をし、より健康で安全な学校を目指す。 ・校内の安全点検に注力し、事故等の未然防止に努める。
		学校保健安全計画に基づき、諸検査・安全点検・防火訓練等を実施する。	9	B	
	生徒の健康の維持・増進を図る。	学校保健安全計画に基づき、健康診断や検診等を実施し、結果をクラス担任や保護者と連携して対応する。	4・9	A	
		保健便りの発行や講演会を通じて、生徒の健康や衛生に対する意識の向上を図る。	4・9・14	A	
		保健室の円滑な管理・運営に努める。	3・4・9	A	
	心身に問題を抱えた生徒への対応を図る。	学校医等の協力を得て、基本的な感染対策の徹底を図り、校内感染の防止に努める。	3・9	B	
生徒の保健室の利用状況を把握する。 クラス担任、学年、他分掌など、関係部署と情報の交換等を行い連携する。		5 11・12	A B		

※評価基準 A：大変よくできた B：よくできた C：ふつう D：やや不十分 E：不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
図書	図書館の利活用の推進を図る。	適切な選書および廃棄、図書の管理を通して、生徒や教職員が利用しやすい環境づくりに努める。	2・11	A	・学校司書の配置により図書館運営の更なる充実を図る。 ・視聴覚室を整備するとともに視聴覚委員会活動について見直しを行う。
		新刊案内、ライブラリーニュース、図書館報等の発行をとおして、読書活動を推進する。	1・3	A	
		図書委員会の諸活動を通して、生涯にわたり図書から学び続けようとする人間性を育む。	1・3・5	A	
	視聴覚室の環境整備	各種機材等の点検をし、利用しやすい環境を整える。	6	C	
渉外	関係諸機関との連携を図り、家庭教育の支援を推進する。	P T A会員に向けて、家庭教育を教職員と共に支援するための研修会の情報を提供していく。 P T A新聞を発行し、広報活動に努める。	4	B	・HPや広報紙による広報活動の充実 ・保護者負担軽減を意識した行事運営。
		P T A会員相互の連携や親睦を深めるとともに、P T A行事への参加率の向上を図る。	4	B	
情報	校外内への情報配信に努める。	校外向けHPの内容を充実させ情報伝達の充実を図る。	6	C	HPの構成を見直し、迅速な更新を行う。
		各科・各校務分掌と連携を図り統合型校務支援システムの安定運用を図る。	11	A	
		生徒個人持ちのタブレット端末の接続支援・電子黒板などの機器の運用支援を行う。	1・15	A	
	P C環境を整備する。	生徒活動に則したP C環境を整備し、校内P Cの正しい利用を推進する。	1・14	A	
活性化委員会	本校の教育活動を地域や中学校に伝え、活性化を図る。	学校公開を兼ねた公開実習を実施し、中学生や保護者に対して広報活動等の充実を図る。	6	A	学校説明会は、学校全体の行事として見直しを行う。
		県西生涯学習センターの地域行事に参加し、本校の広報活動に寄与する。	5・6	A	
第1学年	基本的な生活習慣の確立	服装や言葉遣いなどT P Oを意識する。	1・2・4	B	・多様な生徒が増えている中での適切な対応（S C、S S W等）。 ・教員間での連携を密にとり、適切な対応。 ・生徒が自尊心をもって行動できるようにする。
		身の回りの整理整頓をする。	2・4・5	B	
		時間を守り、規則を守る	1・2・4	A	
	互いに認め合い、高め合える集団の育成	相手の気持ちを考え、思いやりのある言葉とは何か考える。	1・2・4・5	B	
		コミュニケーションの取り方を考える。	1・2・4・5	B	
		伝え合う力を育て、自分たちで考えて行動できる生徒を育む。	1・2・4・5	B	
	進路目標を立てる	自分の適性を理解し、早めに進路目標を立てさせる。	13・14	B	
学力向上及び資格取得につながる指導をする。		1・2	C		
部活動をおととして気力及び体力を養い、将来の進路実現に向けて行動するよう指導する。		7・13	A		
第2学年	基本的な生活習慣の確立	服装や言葉遣いなどT P Oを意識する。	3・4	B	・進路実現に向けた行動を進んで取り組めるように指導する ・自律・自立性の育成を促す
		身の回りの整理整頓をする。	1・3・4	B	
		時間を守り、規則を守る	3・4	B	
	互いに認め合い、高め合える集団の育成	相手の気持ちを考え、思いやりのある言葉とは何か考える。	1・2	B	
		コミュニケーションの取り方を考える。	1・2	B	
		伝え合う力を育て、自分たちで考えて行動できる生徒を育む。	7・8	C	
	進路目標を立てる	「きいた」内容をメモに取り、理解を深める。	1・3・14	C	
進路ガイダンス等を通じて、自分の適性を把握し、将来を見据えた目標を決める。		1・2	B		
インターンシップを通して、仕事や企業に対する理解を深め、進路実現に向けた努力をさせる。		13・14	B		
第3学年	基本的な生活習慣の確立	服装や言葉遣いなどT P Oを意識する。	1・2・4	B	概ね生徒・教員・保護者が連携することで、生徒は希望進路実現することができたが、進路決定後の生活のあり方を意識させる。
		身の回りの整理整頓をする。	2・4・5	B	
		時間を守り、規則を守る。	1・2・4	B	
	互いに認め合い、高め合える集団の育成	相手の気持ちを考え、思いやりのある言葉とは何か考える。	1・2・4・5	B	
		集団生活のあり方やコミュニケーションの取り方を考える。	1・2・4・5	B	
		伝え合う力を育て、自分たちで考えて行動できる生徒を育む。	1・2・4・5	A	
	進路実現に向けて努力する	自分自身を見つめ直し、「進路実現ノート」を活用して具体的な進路を決める。	1・3・7・8	C	
		進路ガイダンス等を通じて、自分の適性を把握し、将来を見据えた目標を決める。	1・3・4・5	A	
	生徒・教員・保護者が連携し、しっかりと進路実現に向けて努力させる。	3・4・7・8	B		

※評価基準 A：大変よくできた B：よくできた C：ふつう D：やや不十分 E：不十分